

◆ 世界における海賊等事案の動向

国際商業会議所（ＩＣＣ）の国際海事局（ＩＭＢ）が１月９日に発表した年次報告書（速報）によると、２００７年に世界で発生した海賊等事案の件数は２６３件（２００６年は２３９件）で、２００３年から２００６年まで減少傾向にありましたが、増加に転じ前年に対して１０％（２４件）増となっています。

海域別の件数としては、インドネシア４３件（同５０件）にナイジェリア４２件（同１２件）とソマリア３１件（同１０件）が続いていて、この３海域だけで世界全体の４割を超えています。このほか、バングラディシュ１５件（同４７件）、紅海・アデン湾１３件（同１０件）、タンザニア１１件（同９件）、インド１１件（同５件）、マラッカ・シンガポール海峡１０件（同１６件）、マレーシア９件（同１０件）となっています。各海域の特徴としては、ナイジェリアの事案４２件のうち２５件がラゴス周辺海域で発生しており、バングラディシュでは１５件全てがチッタゴン周辺海域、タンザニアでは１１件全てがダルエスサラーム周辺海域で発生しています。

２００７年はアフリカ海域の増加が著しく１２０件（同６１件）と前年の約２倍
となって世界全体の４５％を占めており、ナイジェリアとソマリアは前年と比べ３
倍以上に急増しています。また、近年世界全体の４～５割以上を占めていた東南アジア海域は８０件（同８８件）で２００３年から減少が継続しています。

事案の傾向としては、東南アジア海域では約７割（５４件）が錨泊中または停泊中に発生していますが、アフリカ海域では半数以上（６２件）が航行中の船舶に対する襲撃であり、重武装して組織化された海賊等による被害が多くなっています。

人的被害としては、殺害／行方不明となっている乗組員の数が５名（同１５名）

／3名（同3名）のほか、負傷した者の数は35名（同15名）、誘拐された者の数は63名（同77名）、人質にされた者の数は292名（同188名）となっており、身代金目的と思われる事案が多く発生しています。特に東アフリカのソマリアでは、ハイジャック事案が11件（同5件）発生し、人質にされた者の数は154名（同87名）と世界全体の半数以上となっています。

注）国際海事局（IMB）は、国際貿易等に関する取引慣習の統一化等を行う民間団体である国際商業会議所（ICC）の専門部局であり、海賊など海事関係の犯罪に対する防止対策等について、独自に情報を収集し、その分析等を通じて、広く海事関係者に助言を行っている機関です。